

2026 Fall

Japanese Language Course

Syllabus

2026年度 後期

国際教育センター開講

日本語科目

シラバス

2026年3月9日版

2026 Seikei University Japanese Course for the exchange students

【Fall Semester】

Type	Type (Japanese)	Class Title	Class Title (Japanese)	Level	Number of classes per week	Credit	Note
Compulsory (Basic)	必修・基礎	Japanese (1) II	日本語総合 (1) II	1	4	—	Not Offered
		Kanji & Vocabulary (1) II	漢字・語彙 (1) II		1	—	
Compulsory (Basic)	必修・基礎	Japanese (2) II	日本語総合 (2) II	2	5	5	
		Kanji & Vocabulary (2) II	漢字・語彙 (2) II		1	1	
Compulsory (Basic)	必修・基礎	Japanese (pre3) II	日本語総合 (pre3) II	pre3	3	3	
		Speaking & Communication (pre3) II	話す (pre3) II		1	1	
		Writing Skills (pre3) II	書く (pre3) II		1	1	
		Kanji & Vocabulary (pre3) II	漢字・語彙 (pre3) II		1	1	
Compulsory (Basic)	必修・基礎	Japanese (3) II	日本語総合 (3) II	3	3	3	
		Speaking & Communication (3) II	話す (3) II		1	1	
		Writing Skills (3) II	書く (3) II		1	1	
		Kanji & Vocabulary (3) II	漢字・語彙 (3) II		1	1	
Compulsory (Basic)	必修・基礎	Japanese (4) II	日本語総合 (4) II	4	3	3	
		Speaking & Communication (4) II	話す (4) II		1	1	
		Writing Skills (4) II	書く (4) II		1	1	
		Kanji & Vocabulary (4) II	漢字・語彙 (4) II		1	1	
Compulsory Elective (Advanced)	選択必修・発展	Academic Speaking Skills (5) II	討論・スピーチ (5) II	5	1	2	
		Reading Comprehension (Media) (5) II	新聞・評論を読む (5) II		1	2	
		Academic Writing Skills (5) II	アカデミック・ライティング (5) II		1	2	
		Pronunciation & Listening Comprehension (5) II	発音・聴解 (5) II		1	2	
		Reading Comprehension (Literature) (5) II	日本文学を読む (5) II		1	2	
Compulsory Elective (Advanced)	選択必修・発展	Academic Skills A (6) II	アカデミック・スキルズA (6) II	6	1	2	
		Academic Skills B (6) II	アカデミック・スキルズB (6) II		1	2	
Elective (Applied)	選択・応用強化	JLPT N1 Preparation and Training II	日本語能力試験N1 II	4-	1	2	
		JLPT N2 Preparation and Training II	日本語能力試験N2 II	4,5	1	2	
		Extensive Reading II	多読 II	2-	1	2	
		Creating Drama II	日本語劇をつくる II	3-	1	2	
		Japanese for Business II	ビジネス日本語 II	5-	1	2	
		Contemporary Topics in Japanese Culture & Society	日本事情 II	2,pre3,3	1	2	

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	2
科目名 Course Title	日本語総合 (2) II Japanese (2) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	数野 恵理・遠藤 樹子・吉田 結 Eri Kazuno, Shigeko Endo, Yu Yoshida	単位数 Credit	5

〔テーマ・概要〕

中級レベルを目指して、初級後半の総合的な日本語を学び、日本語で聞いたり、話したり、読んだり、書いたりします。

〔到達目標〕

- 初級後半レベルで必要となる新しい文型・文法や言葉、漢字を理解して、使えるようになります。
- 日本語の力をさらにつけて、日本語で聞いたり、話したり、読んだり、書いたりできるようになります。
- 自分のこと（国や町、料理、生活、経験など）を伝え合うことができるようになります。
- 他の人と話し合い、考えや意見を伝えられるようになります。

〔授業の計画〕

- 教科書の各課で以下を勉強します。
 - ①文型・文法の練習・タスク
 - ②確認・復習
 - ③本文会話・発表
 - ④振り返り
- インタビュー・プロジェクトをします。
- テストが2回あります（中間・期末）。紙のテストと会話テストをします。

〔授業の方法〕

- 勉強した文法や表現を使って、聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする練習をします。
- スピーチや発表、作文の練習もします。

〔準備学習等の内容〕

- 新しい文型・文法を習う前に言葉の意味を確認して、Grammar Notesを読んでもください。
- 文型・文法の宿題をしてください。
- スピーチの準備をしてください。

〔成績評価の方法〕

授業への参加度 20%
クイズ・宿題・スピーチ・作文・プロジェクト 40%
テスト（中間・期末）40%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

初級前半レベルの学習が終わっていたほうが良いです。

〔テキスト〕

1回目の授業で伝えます。

〔参考書〕

授業で伝えます。

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	2
科目名 Course Title	漢字・語彙 Kanji&Vocabulary	(2) II (2) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	行田 悦子 Etsuko Koda	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 ・ 初級レベルで必要な漢字300字とことばを楽しく勉強します。 *日本語能力試験(JLPT)のためのクラスではありません。			
〔到達目標〕 ・ 漢字・ことばを覚えて、簡単な話を読んだり書いたりできます。 ・ 毎日の生活で見る漢字・ことばの意味がわかって、楽しく生活できます。 ・ 辞書、アプリなどのツールをうまく使って学ぶことができます。			
〔授業の計画〕 第1回 ガイダンス、レベルチェック 第2～6回 漢字・ことば(1)～(5) 小テスト1～4 よみもの(Reading) 第7～8回 中間試験(Mid-term exam) フィードバック 第8～12回 漢字・ことば(6)～(10) 小テスト5～8 よみもの(Reading) 第13～14回 期末試験(Final Exam) フィードバック ふりかえり			
〔授業の方法〕 ・ 予習(self-study)を中心に、講義(lecture) + 活動(activity)で学ぶスタイルです。 ・ 小テストをして、今日の漢字・ことばを読む・書く・話す練習/活動をします。			
〔準備学習等の内容〕 ・ 新しい漢字・ことばの予習(self-study)をしてください。 ・ 毎回、小テストをします。勉強した漢字・ことばを復習(review)してください。			
〔成績評価の方法〕 参加度 Class activity 15% 小テスト Quiz 20%、課題 Homework 15%、 中間試験 Mid-term Exam 20%、期末試験 Final Exam 30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 ・ ひらがな・カタカナが読めて、書けて、漢字が100～150字ぐらい読めるほうがいいです。			
〔テキスト〕 『留学生のための漢字の教科書 初級 300 英語・中国語・韓国語・ベトナム語版』佐藤尚子、佐々木仁子国書刊行会 ISBN-10 : 4336075840 ISBN-13 : 978-4336075840			
〔参考書〕 ・ 辞書・電子辞書、筆順アプリなど、1回目のクラスで話します。			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	pre3
科目名 Course Title	日本語総合 (pre3) II Japanese (pre3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	川上 麻理・森川 尚子・吉田 結 Mari Kawakami, Naoko Morikawa, Yu Yoshida	単位数 Credit	3
〔テーマ・概要〕 初級レベルを終えた学生が中級レベルに行くために、日本語でバランスよくコミュニケーションができるように、聞く・話す・読む・書く能力をのばす。			
〔到達目標〕 さまざまなテーマやトピックについて、タスクにチャレンジしながら、言語知識（ことば、文法・表現、漢字）や言語スキル（メモの取り方、情報の集め方、発表の方法）を学ぶ。タスクの中で何回も練習して、わかるだけではなくて、できるようになる。			
〔授業の計画〕 教科書のそれぞれの課で、次のことを勉強します。 ①プレタスク ②メインタスク ③文型・表現 ④ポストタスク ⑤漢字の言葉 ⑥振り返り 1つの課が終わったら、クイズを行います。 テストは2回行います（中間テスト、期末テスト）。			
〔授業の方法〕 ・プレタスク：テーマについて知っていることをクラスメートと話し合っ、基本的な知識を持ちます。 ・メインタスク：「聞く」「読む」「話す」「書く」「やりとり」の中の1つを行います。 ・文型・表現：中級を目指す学生に役に立つ文型や表現を学びます。 ・ポストタスク：経験や考えを書く、計画を説明する、調べたことを発表するなどの活動をしします。 ・漢字の言葉：1課について18語を学びます。 ・振り返り：タスクがどれくらいできたか、自分で考えたり教師からアドバイスをもらったりします。			
〔準備学習等の内容〕 予習や宿題があります。クラスで説明します。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、宿題・クイズ 30%、中間・期末テスト 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習が終わっていたほうが良いです。			
〔テキスト〕 1回目の授業で説明します。			
〔参考書〕 クラスで説明します。			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	pre3
科目名 Course Title	話す (pre3) II Speaking & Communication (pre3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	遠藤 樹子 Shigeko Endo	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 日常生活や身近なテーマについて、日本語で会話やスピーチを行う練習を通して、発話力を高める。			
〔到達目標〕 ・身近な話題について、自分の経験や意見を日本語で話すことができるようになる。 ・相手の話を聞き、質問やかんたんなコメントができるようになる。 ・話す順番を意識して、短いスピーチができるようになる。 ・日本語の基本的な発音・アクセントを意識して話せるようになる。			
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2～3回 会話 (過去の経験、未来やこれからの予定) 第4～6回 談話 (依頼する、誘う・断る、不満を言う) 第7回 口頭試験 第8～11回 プロジェクト 第12～13回 スピーチ (トピックについて意見を話す) 第14回 まとめ			
〔授業の方法〕 1. テーマに関連する内容の文を用いて、発音、アクセント、イントネーションの練習を行う。 2. テーマに関連する表現や言葉を学ぶ 3. テーマについて、個人、ペア、グループで話す。			
〔準備学習等の内容〕 授業で説明します。			
〔成績評価の方法〕 口頭試験 30%、プロジェクト 30%、課題の提出 20%、授業への参加度 20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習がおわっていたほうがいいです。			
〔テキスト〕 授業で必要な資料を配ります。			
〔参考書〕 なし			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	pre3
科目名 Course Title	書く (pre3) II Writing Skills (pre3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	川上 麻理 Mari Kawakami	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 中級レベルへの準備として、新しい言葉や表現を増やしながら、これまで学習した言葉や表現を使って、テーマのある文章を250-400字程度で書く練習をする。			
〔到達目標〕 ・400字程度のまとまりのある文章が書けるようになる。 ・豊かな表現を使って内容のある文章が書けるようになる。 ・読む人に伝わるわかりやすい文章が書けるようになる。			
〔授業の計画〕 *ボランティアの参加を予定しています。 第1回 オリエンテーション、自己紹介、原稿用紙の使い方 第2回～第12回 身近な話題について、説明をしたり考えや感想を述べたりする作文を書きます。 メールの書き方も学びます。 第13回 期末テスト 第14回 まとめ			
〔授業の方法〕 ・学習する課のテーマについて、クラスで考えます。 ・モデル文を読んで、新しい言葉や表現や作文の構成を学びます。 ・クラスメートと話し合いながら、作文のメモを書きます。 ・作文を書きます（授業中または宿題）。 ・書いた作文について、クラスメートと読み合ったり、発表したりします。			
〔準備学習等の内容〕 教科書のモデル文を読んでもくる。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、課題の提出 40%、期末テスト 30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習が終わっていたほうがいいです。			
〔テキスト〕 1回目の授業で説明します。			
〔参考書〕 なし			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	pre3
科目名 Course Title	漢字・語彙 Kanji&Vocabulary	(pre3) II (pre3) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	呉 佳穎 Wu Chiayinn	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 初級の漢字をふくしゅうしながら、あたらしい漢字の「かたち・おと・いみ」と語彙をまなびます。 ※日本語能力試験のための授業ではありません。			
〔到達目標〕 1. 250字ぐらいの漢字をおぼえます。 2. 漢字語彙のいみをわかり、つかえるようになります。 3. 授業外でも主体的にまなぶことができます。			
〔授業の計画〕 第1回 ガイダンス、第1～2課の説明と練習 第2～4回 第3～8課の説明と練習 第5回 ふくしゅうテスト①：第1～8課 第6～9回 第9～16課の説明と練習 第10回 ふくしゅうテスト②：第9～16課 第11～13回 第17～22課の説明と練習 第14回 ふくしゅうテスト③：第17～22と課題発表			
〔授業の方法〕 1. 漢字の「かきかた」を練習します。 2. 漢字の「いみ」と「ことば」を勉強します。 3. テキストの練習問題を書いて、短い文を読みます。 4. 毎回、小テストがあります。			
〔準備学習等の内容〕 毎回小テストをおこなうため、まなんだ漢字と語彙をじぶんでふくしゅうするひつようがあります。 また、テキストの練習問題を宿題として課することもあります。			
〔成績評価の方法〕 授業での取組と課題発表 30%、小テストと宿題 30%、テスト 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級の漢字をある程度知っていたほうがいい			
〔テキスト〕 『どんどんつながる漢字練習帳 初級』アルク ISBN 978-4-7574-2618-4			
〔参考書〕 ありません			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	3
科目名 Course Title	日本語総合 (3) II Japanese (3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	数野 恵理 Eri Kazuno	単位数 Credit	3
〔テーマ・概要〕 中級前半レベルの総合的な日本語の力（読む、書く、聞く、話す）を身につける。			
〔到達目標〕 社会や文化の身近な話題について、読んだり、聞いたり、話したり、書いたりできるようになる。また、大学での学習に必要なスキルや考える力を身につける。			
〔授業の計画〕 ・以下の流れで各課の学習を進める。 ① プレタスク（テーマについて知っていることや考えを話したり、情報を読み取ったり、聞き取ったりする。その課に必要な言葉も学習する。） ② メインタスク（読んだり、聞いたり、調べて考えたことを話し合ったり、意見文を書いたりする。） ③ 文型・表現（中級前半の文型・表現を練習する。） ④ 漢字の言葉（中級前半の漢字の言葉 140 語の読み方と意味を学習する。） ⑤ ポストタスク・振り返り（テーマについて別の角度から考え、発表などをする。その課のテーマについて、何ができるようになったかを振り返る。） ⑥ クイズ ・中間テスト（第 1～3 課）と期末テスト（第 4～7 課）がある。			
〔授業の方法〕 ・中級前半の文型・表現・漢字の言葉を学び、ユニバーサルデザイン、防災、環境、メディアリテラシーなどさまざまなテーマについて読んだり、聞いたり、話したり、書いたりして、タスクに取り組む。			
〔準備学習等の内容〕 ・宿題のほか、予習、復習が必要になる。詳しくはクラスで説明する。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 20%、クイズ・宿題・課題 40%、中間・期末テスト 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初中級の学習が終わっていたほうがいい。			
〔テキスト〕 初回の授業で伝える。			
〔参考書〕 特になし			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	3
科目名 Course Title	話す (3) II Speaking & Communication (3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	行田 悦子 Etsuko Koda	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 ・日常会話でよく聞かれる「問い」に対して、日本語で考え、話す力を身につける。 ・談話構成、話し方、文法・語彙を学び、それを組み合わせ、相手を意識して話す。			
〔到達目標〕 ・自分の考えをその理由、根拠や具体例などを示しながら話すことができるようになる。 ・自然な日本語の発音、アクセント、イントネーション、間のとり方などの重要性を理解する。 ・目的、場面、話す相手に合わせたわかりやすい説明・話し合い・発表が行えるようになる。			
〔授業の計画〕*メンバーのレベルや人数によって、内容、進み方を変えることがある。 第1回 コース紹介 自己紹介 第2～3回 大学生活（比べて説明する） 話し合い 第4～6回 生活の変化（グラフを説明する） 発表1 第7回 口頭試験 第8～10回 若者の考え方（予想してインタビューする） 発表2 第11～14回 期末プロジェクト 話し合い・発表 振り返り			
〔授業の方法〕 ・予習ワークシートに書かれた「問い」に対する自分の答えを考え、話す。 ・他の人の意見を聞いて、理由、根拠、例を使って自分の意見を積極的に伝え、考えを深める。 ・そのために、正しい情報をさがし話す練習、スクリプト、短文を書いて話す練習をする。			
〔準備学習等の内容〕 ・テーマについて、何が話したいか、よく考え、必ず課題をしてから授業に参加する。 ・読むこと、書くことは、自分の考えを整理して、はっきり話すために準備として行う。			
〔成績評価の方法〕 話し合いへの参加度20% 口頭試験20% 発表30% 期末プロジェクト30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・初級レベルを終え、中級で習った文法・語彙を使って日常会話ができることが期待される。			
〔テキスト〕 ・ハンドアウト資料を配布する。			
〔参考書〕 ・必要なときに、授業で紹介する。			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	3
科目名 Course Title	書く (3) II Writing Skills (3) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	森川 尚子 Naoko Morikawa	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 これまでに学習した語彙や表現を使い、スタイルや構成を意識した作文のルールを学び、説明文や意見文など、400字～600字程度のテーマのある文章を書く練習をします。			
〔到達目標〕 1. 全体的な構成を考えながら、400～600字程度の説明文、意見文が書けるようになる。 2. 各テーマ、用途にふさわしい作文ルールやスタイルを使って書けるようになる。 3. 読み手に伝わる書き方を自分で考えながら書けるようになる。			
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション (原稿用紙ルール) 第2-3回 1-2課 理由を説明する 第4-6回 3-5課 意見文 第6回 中間テスト 第7-9回 6-7課 論理的な書き方 第10回 要約文 第11-12回 8課 まとめ・復習 メールの書き方、文集の作成 第13回 期末テスト作文 第14回 テストフィードバック、振り返り			
〔授業の方法〕 1. その日の授業のテーマについて、クラスメイトと話し合いをして、アウトラインを作ります。 2. 作文のルールや表現について学びます。 3. グループで話したことや、作文のルールで学んだことをもとに、作文を書きます (宿題)。 4. 書いた作文は、次の授業で、クラスメイトといっしょにチェックをしてから、提出します。 5. 先生からのフィードバックをもとにリライトして、最後にクラスの文集にまとめます。			
〔準備学習等の内容〕 毎週、作文の宿題があります。かならず書いて次の授業に持ってくること。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 (出席・活動など) 40%、課題提出 ^{ていしゅつ} 30%、中間・期末テスト30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 初級レベルの学習が終わっていること			
〔テキスト〕 ・「書くことを楽しむ中級作文」 (凡人社) ・教師ハンドアウト			
〔参考書〕 特になし			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	3
科目名 Course Title	漢字・語彙 Kanji&Vocabulary	(3) II (3) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	吉田 結 Yu Yoshida	単位数 Credit	1
<p>〔テーマ・概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語中級前半レベルの学生が、色々なテーマに合わせて必要な漢字・語彙を学ぶ。 日本語能力試験 (JLPT) N3 レベルの漢字 200 字ぐらい。 <p>※日本語能力試験のためのクラスではありません。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 中級前半レベルの漢字・語彙を増やし、自分に合った学習方法をみつける。 場面や文脈にふさわしい漢字・語彙を理解し、使い分けられるようになる。 日本での生活に必要な漢字・語彙を正しく読み・書き・使う力を身につける。 			
<p>〔授業の計画〕 クラスの人数や理解度に合わせて、変わる可能性があります。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション 第 2～6 回 1 課～5 課 毎回のテーマに沿った漢字・語彙、宿題発表、小テスト 第 7 回 中間試験 第 8～12 回 6 課～10 課 毎回のテーマに沿った漢字・語彙、宿題発表、小テスト 第 13 回 復習、まとめ、振り返り 第 14 回 期末試験</p>			
<p>〔授業の方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回 1 課進み、その課で設けられたテーマに沿って新しい漢字・語彙を学びます。 授業で習った語彙を使って文作、Q&A、文作発表、課ごとのテーマに沿った課題活動などを行います。 毎回、小テストを行います。 			
<p>〔準備学習等の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み書きや意味だけでなく、課題や宿題プリントなどを通して使い方も覚えましょう。 また、毎回小テストも行うので、よく復習しましょう。 漢字・語彙クラスのノートを各自用意して下さい。 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>授業参加度 20%、小テスト 20%、課題 20%、中間・期末テスト 40%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <p>初級の漢字 300 字ぐらい</p>			
<p>〔テキスト〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 『留学生のための漢字の教科書中級 700』 佐藤尚子 図書刊行会 担当教師作成のハンドアウト 			
<p>〔参考書〕</p> <p>必要な際、授業内で紹介します。</p>			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	4
科目名 Course Title	日本語総合 (4) II Japanese (4) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	川上 麻理・森川 尚子 Mari Kawakami, Naoko Morikawa	単位数 Credit	3
〔テーマ・概要〕 中級後半レベルの総合的な日本語の力（読む、書く、聞く、話す）を身につける。			
〔到達目標〕 <ul style="list-style-type: none"> ・新しい文型・文法や表現や漢字を学び、それが使えるようになる。 ・さまざまなトピック、スタイルの読み物が読めるようになる。 ・自然な速さの日本語を聞いて、必要な情報が取れるようになる。 ・読んだり聞いたりしたものについて、自分の考えや感想を適切な表現を使って話したり書いたりできるようになる。 			
〔授業の計画〕*ボランティアとの交流を予定 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の各課で、以下の内容を学習する。 ① 文型・文法、表現、漢字・語彙の理解・練習 ②本文読解 ③聴解 ・各課が終わるごとに、ことば・文法クイズを行う。 ・教科書以外の教材を使って、読んだり聞いたりする練習をする。 ・教科書もしくは教科書以外のテーマで発表や話し合いの練習を行う。 ・テストは2回行う（中間・期末）。 			
〔授業の方法〕 <ul style="list-style-type: none"> ・本文に出てくる文型・文法、ことば、漢字を勉強し、使えるように練習する。 ・文章の構成を意識しながら、本文を読む。 ・本文の内容を正確に理解し、内容について説明したり、クラスメートと意見を交換したりする。 ・教科書以外の文章を読む、動画を視聴する、クラスメートの発表を聞くなどして、感想や意見を述べたり、内容をまとめたりする。 			
〔準備学習等の内容〕 <ul style="list-style-type: none"> ・予習として、ことばや文法を調べ、本文を読んでくることが求められる。 ・ことば・文法クイズのために準備をする。 ・各課で、文法、読解などの課題を提出する。 			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、課題・クイズ 30%、試験 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級前半の学習を終えていることが求められる。			
〔テキスト〕 初回の授業でテキストについて指示し、くわしいスケジュールを配付する予定。			
〔参考書〕 クラスで説明する。			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	4
科目名 Course Title	話す (4) II Speaking & Communication (4) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	吉田 結 Yu Yoshida	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 日本語でのコミュニケーション能力、口頭表現能力（発表）、伝えるための話し方を身につける。			
〔到達目標〕 ・今まで勉強した日本語や授業で習った表現を使って、様々なテーマについて自分の考え、言いたいことがまとまった長さで伝えられるようになる。 ・聞き手のことを考えて、口頭表現（発表）が行えるようになる。 ・意見の交換など、円滑なコミュニケーションができるようになる。			
〔授業の計画〕 クラスの人数や理解度に合わせて、変わる可能性があります。 第1・2回 オリエンテーション、ミニスピーチ「数字を使って自己紹介」 第3回 クラスディスカッション（ニュース） 第4～8回 グラフを使って話す 日本・自国・世界の色々な事情について 発表1 クラスディスカッション（ごみ・環境、仕事と役割（男・女）） 第7～11回 インタビュー活動（賛成 or 反対、必要 or 不必要） 第12・13回 インタビュー発表、まとめ、振り返り 発表2 第14回 期末テスト			
〔授業の方法〕 ・発表で使う表現の練習をして、自分のテーマについてスピーチを作り発表する。 ・発表するために、資料を準備し、話し方の練習をしてから発表する。 ・実際に行った発表について質疑応答や意見交換などを行う。 ※発表の振り返りは、録画動画を見て行う ・授業の中で、様々なテーマについてディスカッション（意見・感想を話す）練習をする。 ・シャドーイングで会話練習を行う。 ・インタビュー活動 ※日本人学生ボランティアに参加してもらうこともある			
〔準備学習等の内容〕 授業の際に指示する。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 20%、課題 30%、発表 35%、期末テスト 15%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級前半の学習が終わっていることが望ましい。			
〔テキスト〕 授業の際に必要な資料、担当者作成のハンドアウトを配布する。			
〔参考書〕 なし			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	4
科目名 Course Title	書く Writing Skills	(4) II (4) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	岩佐 靖夫 Yasuo Iwasa	単位数 Credit	1
〔テーマ・概要〕 中級レベルの人のためのクラスです。前半の授業では表記のし方や論文体の定着、モデル文型を模倣した比較的短い文章を正確に作成することに主眼を置いて行います。後半の授業では小論文の作成を考慮に入れ、それまでに学習した語彙及び表現方法を使いながら、自分の意見を論文体として正確に表現した文章が作成出来るように指導を行います。			
〔到達目標〕 * 授業の進み方によっては変わることがあります。 ・ 日本語の書き言葉を積極的に覚えるようにし、ふさわしい文章表現が出来るようになる。 ・ 話し言葉と書き言葉の違いを認識し、適切な書き言葉による表現が出来るようになる。 ・ 模範となる論文例やディスコース例をもとに、構成の整った小論文の書き方を覚える。			
〔授業の計画〕 第1回 オリエンテーション、表記のし方 第2回 文体と書きことば、メールの書き方 第3回 「は」と「が」 第4回 テーマを述べる 第5回 理由・経過を述べる 第6回 定義をする 第7回 判明していることを述べる 第8回 問題点を述べる 第9回 引用する 第10回 解決策を述べる 第11回 手順を述べる 第12回 指示詞を使う 第13回 小論文の書き方(三部構成、図表の文章化) 第14回 期末テスト			
〔授業の方法〕 日本語の文章を作成するために必要な語彙や文法知識を学んだ後、原因、中立、引用などの諸テーマに合った文章を書く練習を行います。			
〔準備学習等の内容〕 書き言葉の習得は、授業で学習した箇所を復習することが直に定着につながるため、授業終了後は怠りなく復習を行っておくことが望ましいです。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、小テスト 20%、課題 20% (ポートフォリオを含む)、期末試験 30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N 2 を目指す、または合格レベルが望ましい。			
〔テキスト〕 アカデミック・ジャパニーズ研究会編著『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語 ②作文編』(アルク刊, 税別定価 ¥1,600-)			
〔参考書〕 友松悦子著『中級日本語学習者対象 小論文のための 12 のステップ』(スリーエーネットワーク刊)、佐藤政光・戸村佳代・田中幸子・池上摩希子著『表現・テーマ別 にほんご作文の方法』(第三書房刊)、『外国人のための基本語用例辞典』(文化庁刊)			

科目種別 Course Type	必修・基礎 Compulsory (Basic)	レベル Level	4
科目名 Course Title	漢字・語彙 (4) II Kanji&Vocabulary (4) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	行田 悦子 Etsuko Koda	単位数 Credit	1
<p>〔テーマ・概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中級レベルの漢字・語彙をいろいろなテーマにそって学ぶ。 ・日本語能力試験(JLPT)N2～N3 レベルの漢字を 200 字ぐらい学習する。 <p>※日本語能力試験のためのクラスではない。</p>			
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級～中級前半の漢字を 500 字ぐらい学んだ学生が、さらに 200 字ぐらいの漢字・語彙について正しい読み方と意味を学び、理解語彙を増やす。 ・漢字の書き方も学び、実際に使われる場面、文脈を理解し、語彙が適切に使えるようになる。 			
<p>〔授業の計画〕 ※クラスの人数やレベルによって、変えることもある。</p> <p>第 1 回 オリエンテーション・自己紹介・レベルチェック</p> <p>第 2～6 回 11～15 課 小テスト テーマにそった語彙・漢字を使う活動</p> <p>第 7 回 中間テスト フィードバック</p> <p>第 8～12 回 16～20 課 小テスト テーマにそった語彙・漢字を使う活動</p> <p>第 13 回 まとめ、復習、振り返り</p> <p>第 14 回 期末テスト</p>			
<p>〔授業の方法〕 ※予習を中心に、講義、活動を通して学ぶ授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回 1 課進み、これまで学んだはずの漢字の復習をする。 ・その日に学ぶ課のポイント解説、質問を受け、テーマにそった語彙・漢字を使う活動をする。 ・毎回前の週に学んだ課の漢字・語彙小テストをする。 			
<p>〔準備学習等の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ課について、復習をして、小テストの準備をする。 ・次の週に学ぶ漢字の筆順を確認し、新しい語彙の意味を読んでできるだけ覚えておく。 ・課題や宿題プリントについては、授業で説明する。 <p>※漢字・語彙のクラスのノートを各自用意すること。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>参加度 15% 小テスト 20% 課題 15% 中間試験 20% 期末試験 30%</p>			
<p>〔成績評価の基準〕</p> <p>成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.</p>			
<p>〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級～中級前半の漢字 500 字ぐらい学習が終わっていたほうがよい。 __250 字ぐらい覚えて読み書きができたほうがよい。 			
<p>〔テキスト〕 ※初回授業で説明を聞いてから買うこと。</p> <p>『留学生のための漢字の教科書 中級 700-英語・中国語・韓国語・ベトナム語版』佐藤尚子／佐々木仁子 国書刊行会</p>			
<p>〔参考書〕</p> <p>授業中に紹介</p>			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	5
科目名 Course Title	討論・スピーチ (5) II Academic Speaking Skills (5) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	片山 智子 Tomoko Katayama	単位数 Credit	2

〔テーマ・概要〕

人間関係を維持し育むための、円滑なコミュニケーションを重視した、口頭表現の方法を学ぶ。

〔到達目標〕

- ・社会的なあるいはやや専門的な話題について、聞き手を考慮した説明や描写を使って発表できる。
- ・ディスカッションやディベートなど、改まった場面で意見の交換や討論をするための表現や方策を学び、身につける。
- ・相手に対する配慮のある助言や説得ができるようになる。

〔授業の計画〕

受講生の人数やニーズに合わせて、変更する可能性がある。

- 第1回 オリエンテーション 自己アピール（質問をする+質問に答える）
- 第2～4回 スピーチの基礎（構成・聞き手をひきつける工夫）・即興1分間スピーチ
わかりやすい説明について（描写・時間の経過・データの説明など）
- 第5回～7回 論理的に話す、素早く意見を言う
レジュメを使った発表、ピンポンディベート等
- 第8回～10回 プレゼンテーション 準備から発表まで 発表時はビジターの参加を予定
テーマ決定・アウトライン・スライド作成・リハーサル⇒実施
- 第11回～14回 ディスカッション（ディベート）
相談をして意見をまとめる/テーマについて意見を交換する/司会をする
ディスカッションについて手順と表現の説明・練習・準備⇒実施

〔授業の方法〕

- ・ペアワーク・グループワーク・個別準備
（実践）⇒ 必要な表現の学習と手順の理解 ⇒ 実践
- ・教員による評価の前に、自己評価をする。
- ・適宜日本人のビジターに参加してもらう予定

〔準備学習等の内容〕

- ・授業の際に指示する。
- ・授業で発表をする課題の場合、指示に従って授業外でしっかり準備をしておくこと。

〔成績評価の方法〕

参加度・課題提出 30%、スピーチ、ディスカッション等 40%、プレゼン 30%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

中級レベルの学習を終えていること

〔テキスト〕

授業時に、必要な資料とハンドアウトを配付する。

〔参考書〕

授業時に、オンラインサイトなどを紹介する。

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	5
科目名 Course Title	新聞・評論を読む (5) II Reading Comprehension (Media) (5) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	岩佐 靖夫 Yasuo Iwasa	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 新聞のいろいろな記事・論説文、また書籍における評論を読む。			
〔到達目標〕 新聞記事や新書等の読解を通じて、語彙や文法の知識を増やし、読解能力を高める。 ある程度の長さの論説文・評論文を精読し、細部の内容まで理解できるようになる。 読解を行った記事に対する意見の表明が行えるようになる。			
〔授業の計画〕 *授業の進み方によって変わることがあります。 第1～6回 一般の記事を読む -流行、経済、地球を取り巻く環境- 第11回 書籍の評論を読む(2) 第7回 芸術誌の記事を読む 第12回 一般の記事を読む -娯楽、旅行- 第8回 一般の広報誌を読む 第13回 朝日新聞『天声人語』を読む 第9回 コラムを読む 第14回 期末試験 第10回 書籍の評論を読む(1)			
〔授業の方法〕 記事内の主要語彙及び関連語彙、文型と関連する文型について学習する。その後、学生が記事を 交替する形で音読する。最後に教員が記事を読み、主要な語彙及び文型、記事内容の再確認を行う。 以上を各回の授業の基本的な方法として実施する。			
〔準備学習等の内容〕 次回の講義内容までに、配布教材の読解を行ってこることが望ましい。 必要に応じて、漢字・語彙、記事内の文型に関する予習を課す場合がある。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、課題又は小テスト 20%(学期中 2 回)、期末試験 50%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第 39 条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N 2 程度の日本語能力を持っていることが望ましい。			
〔テキスト〕 初回授業時に冊子を配布する。			
〔参考書〕 必要な折に指示する。			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	5
科目名 Course Title	アカデミック・ライティング (5) II Academic Writing Skills (5) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	数野 恵理 Eri Kazuno	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 アカデミック・ライティングの力をつけるために、レポートの構成やレポートで使う表現を学び、レポートを作成する。			
〔到達目標〕 ・レポート作成の基本的な技術を身につけ、論拠を示し、論理的で説得力のあるレポートが書けるようになる。 ・手書きでリアクションペーパーが書けるようになる。 ・大学での学習に必要なスキルや分析する力、批判的に考える力、論理的に説明する力を身につける。			
〔授業の計画〕 第1回 コース説明、アカデミック・ライティングとは、作文① 第2回 事実と意見、作文② 第3, 4回 レポートの例、レポートに使われる表現、レポートの構成、引用のしかた 第5, 6回 メールの書き方、図表とデータの説明、レポートの案提出、資料の収集と引用 第7~9回 詳しいアウトラインの作成、中間発表、レポート作成準備 第10~11回 レポート（前半1250字）提出、書き直し 第12回 レポート（2500字）提出、作文③（テストの練習） 第13回 作文④（レポートの内容） 第14回 書き直したレポートの提出、作文テスト			
〔授業の方法〕 このクラスでは、論証型のレポート（関心のあるテーマについて資料を集め、論点を考えて、資料を引用しながら自分の意見を述べる形式のレポート）を書く。そのために、レポートの構成、レポートでよく使う表現や引用のしかたを学習して、レポート作成の基礎を学ぶ。レポート作成の過程では中間発表を行い、クラスメートや教師からのコメントを参考にしてレポートを書き進める。チェックシートを用いて自分の書いたレポートを見直す活動も行う。レポートが完成したら、フィードバックを踏まえて書き直す。なお、授業では手書きで文章を書く練習もする。			
〔準備学習等の内容〕 レポート作成のための準備など、事前準備については毎回の授業で指示する。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度20%、課題20%、レポート30%、テスト30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 中級レベルの学習を終えていることが求められる。			
〔テキスト〕 初回の授業で指示する。			
〔参考書〕 適宜、紹介する。			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	5
科目名 Course Title	発音・聴解 (5) II Pronunciation & Listening Comprehension (5) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	呉 佳穎 Wu Chiayinn	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 聞き手にとって「より聞きやすく、分かりやすい」発音を身につける練習と、ニュースや生の日本語を聞き取る練習を行う。			
〔到達目標〕 日本語の発音に関する基礎知識を学び、話し言葉の特徴に慣れる。さらに、シャドーイング練習を通して聴解力を高め、日本語での反応速度を向上させるとともに、ニュースやインタビューを用いた学習により語彙力・文法力を伸ばす。あわせて、イントネーションをより自然で滑らかなものにすることを目標とする。			
〔授業の計画〕 第1回 ガイダンス、聴解タスク①前半 第2回 聴解タスク①後半、発音タスク（日本語の拍）、聴解タスク②前半 第3回 聴解タスク②後半、発音タスク（アクセントとは）、聴解タスク③前半 第4回 聴解タスク③後半、発音タスク（アクセントのパターン）、聴解タスク④前半 第5回 聴解タスク④後半、発音タスク（複合アクセント）、聴解タスク⑤前半 第6回 聴解タスク⑤後半、発音タスク（母音無声化）、聴解タスク⑥前半 第7回 聴解タスク⑥後半、復習、聴解タスク⑦前半 第8回 中間テスト 第9回 発音タスク（話しことばの縮約形）、聴解タスク⑦前半 第10回 聴解タスク⑦後半、発音タスク（発表の基本的な表現）、聴解タスク⑧前半 第11回 聴解タスク⑧後半、発音タスク（動詞のアクセント1）、聴解タスク⑨前半 第12回 聴解タスク⑨後半、発音タスク（動詞のアクセント2）、聴解タスク⑩前半 第13回 聴解タスク⑩後半、復習、プロジェクト課題発表 第14回 期末試験			
〔授業の方法〕 1. 聴解：NHK ニュースなどの聞き取りとシャドーイングを行う。タスク①～⑩では、災害・自然・社会・ビジネス・科学・文化などに関する内容を扱う予定である。 2. 発音：発音のルールについて、実際に声を出しながらペア練習を行う。 3. プロジェクト課題：自身が関心を持つテーマを設定し、周囲の日本人の意見を収集したうえで、クラスで発表・ディスカッションを行う。			
〔準備学習等の内容〕 1. 毎回、授業で練習した内容（語彙・シャドーイングなど）の復習は各自で行うこと。 2. プロジェクト課題のテーマを自ら設定し、発表内容を準備すること。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 20%、聴解課題 30%、プロジェクト課題 10%、中間テスト・期末試験 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 N2 程度の日本語能力を持っていることが望ましい。			
〔テキスト〕 中川千恵子他著『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』ひつじ書房			
〔参考書〕 なし			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	5
科目名 Course Title	日本文学を読む (5) II Reading Comprehension (Literature) (5) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	行田 悦子 Etsuko Koda	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 ・生の日本文学に触れながら、日本語、日本文化・社会への理解を深める。 ・意見交換しながら、多様な解釈を共有することで、異文化、多文化、自己・他者理解をする。 *扱う作品は、前期とは異なる。前期からの継続履修者も歓迎する。			
〔到達目標〕 ・(辞書を引きながら)、きちんと生の文学作品を読み、内容を理解することができる。 ・作品を味わい、内容について他の読者と意見を交換し、自分の考えを根拠を示しながら言える。 ・最終的には自ら作品を選び、授業以外でも読書を楽しめるような自律した読者となる。			
〔授業の計画〕 *受講者のレベル・人数により変更することもある。詳細は1回目に説明。 第1回 コース紹介、レベルチェック 作品の読み方 問いの種類 第2～6回 読書ノートの書き方 課題作品1-2 ①読む前に ②内容確認 ③ディスカッション&まとめ 第7～8回 中間試験 フィードバック 第9～12回 課題作品3-4 ①読む前に ②内容確認 ③ディスカッション&まとめ 第13～14回 期末試験 フィードバック ふりかえり			
〔授業の方法〕 ・講義ではなく、話し合い活動中心のクラス。 ・宿題として作品を読み、わからないことばを調べ、問いを作成してくることを前提に進める。 ・読んだ作品について、クラスメートとのインターアクションを通して学ぶことを大切に考えている。			
〔準備学習等の内容〕 1) 授業に来る前に、(辞書を使って) 作品を読む 2) 読書ノート・問いリストを作成する			
〔成績評価の方法〕 受講者のレベル・構成によって、±5%の調整をすることもある。 討論貢献度 20%、課題(音読を含む) 30%、中間試験 20%、期末試験 30%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 ・日本語能力試験N2程度の漢字・語彙能力があることが望ましい。			
〔テキスト〕 ・ハンドアウトを配布する。			
〔参考書〕 ・必要に応じ、その都度授業内で指示する。			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	6
科目名 Course Title	アカデミック・スキルズ A (6) II Academic Skills A (6) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	山下 順子 Junko Yamashita	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕			
大学・大学院で学ぶ際に必要な、聴解・口頭能力を中心とした日本語能力の育成を目指す			
〔到達目標〕			
<ul style="list-style-type: none"> 大学の講義や、専門的な講演やプレゼンテーションを理解できるとともに、聞いた情報をまとめたり他の人に伝達したりすることができる。 与えられた情報をもとに、自分の立場を明確に述べ、相手を説得することができる。 テーマの利点や欠点を踏まえた上で、相手への配慮を示しながら円滑なやりとりが行える。 聞き手を意識したプレゼンテーションができる。 			
〔授業の計画〕			
第1回 オリエンテーション、自己紹介			
第2～4回 聴解力の育成（講義の聞き方、レジュメのとり方、内容のまとめ方）			
第5～8回 口頭能力の育成（意見陳述、ディベート）			
第9～13回 プレゼンテーションの準備（個別指導含む）			
第14回 プレゼンテーション、全体の振り返り			
〔授業の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> 講義や講演、プレゼンテーションを聞いて内容を理解する。 情報の取捨選択やメモ・レジュメの取り方などを学び、内容をまとめたり伝達したりする練習をする。 与えられた情報に基づいて自分の意見や立場を適切に述べ、効果的に表現する練習を行う。 分かりやすい展開の仕方や伝わりやすい話し方を考え、効果的にプレゼンテーションを行う。 			
〔準備学習等の内容〕			
授業毎に適宜指示する。			
〔成績評価の方法〕			
クラスへの参加度・貢献度 30%、 授業中の活動の成果物 30%、 プレゼンテーション 40%			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
日本語能力試験 N1 に合格している、または同等のレベルであることが望ましい。			
〔テキスト〕			
必要な資料を授業で配布します。購入の必要はありません。			
〔参考書〕			

科目種別 Course Type	選択必修・発展 Compulsory Elective (Advanced)	レベル Level	6
科目名 Course Title	アカデミック・スキルズ B (6) II Academic Skills B (6) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	森川 尚子 Naoko Morikawa	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 大学・大学院で必要なレポート・論文などの読解に必要な能力を高め、書き方のルールに沿って自分の意見を表す。			
〔到達目標〕 1. 新聞コラム、新書など専門的な内容を含んだテーマのある文章が読め、理解できる。 2. 大学・大学院で必要なレポート・論文について、適切な文体・文末表現等を使って自分の主張が書ける。			
〔授業の計画〕 第 1 回 オリエンテーション・文型・表現練習 (復習) 第 2～4 回 読解課題 A 文型・表現練習 ディベートと報告 第 5～8 回 読解課題 B 文型・表現練習 レポート (1600 字程度) 第 9～11 回 読解課題 C 文型・表現練習 期末レポート (2000 字程度) 第 12～13 回 期末レポート検討 発表資料作成 第 14 回 レポートプレゼンテーション			
〔授業の方法〕 1. 社会問題・時事問題などテーマのある読解課題について、アカデミックな文章の構成を意識しながら内容を読み解く。 2. レポート・論文を書くのに必要な文型・表現を学び、クラスメートとのピア活動からのコメント・アドバイス、また AI を利用しながら問題意識をまとめるスキルを磨く。 3. 読解課題の内容から得た情報や自分の専門について、課題を発見し、レポートを執筆する。			
〔準備学習等の内容〕 毎回授業ごとに連絡します。CoursePower を使って、読解資料配布、課題提出をします。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 (出席・活動参加) 40%、課題 (提出・内容・検討評価) 40%、期末レポート 20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 ・日本語能力試験 N1 に合格している、または同等のレベルであることが求められる。 ・「作文」などの授業を履修したことがあること。			
〔テキスト〕 教師ハンドアウト (初回の授業で指示します)			
〔参考書〕 特に指定しない。			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective (Applied)	レベル Level	4 以上
科目名 Course Title	日本語能力試験 N1 (選) II JLPT N1 Preparation&Training (EL) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	岩佐 靖夫 Yasuo Iwasa	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 日本語能力試験 N1 級合格のための講義です。講義は、上級段階における語彙力、文法力、読解力の養成を中心として行います。			
〔到達目標〕 ・ N1 レベルの語彙の意味を理解し、適切な文脈で使用出来る。 ・ N1 レベルの文法の意味を理解し、適切な文脈で使用出来る。 ・ 対話や講義を聞き、要点やキーワードをつかむことが出来る。			
〔授業の計画〕 * 授業の進み方によっては変わることがあります。 第 1 回 オリエンテーション、文字・語彙 第 7 回 中間試験 読解(聴解)の演習 第 8 回～第 13 回 文字・語彙・文法 第 2～6 回 文字・語彙・文法・読解(聴 読解(聴解)の演習 解)の演習 第 14 回 期末試験			
〔授業の方法〕 ・ 語彙力の養成では、これまでの試験において頻出されている類義語の意味の区分、慣用表現や擬態語・擬声語、外来語の意味について中心的に解説を行います。 ・ 文法力の養成では、機能文型における類意表現について中心的に解説を行います。 ・ 読解力の養成では、先ずポイントとなる語彙や文型を解説し、問題の演習を行います。			
〔準備学習等の内容〕 下記テキストの中から必要と認められる折に自宅学習の指示を出します。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N2 に合格していることが望ましい。			
〔テキスト〕 日本語能力問題研究会編『日本語能力試験直前対策 N1 文字・語彙・文法』(国書刊行会刊, 税別定価 ¥1,400-)			
〔参考書〕 『改訂版 完全マスター 1 級 日本語能力試験対策 文法問題集』(スリーエーネットワーク刊)、 『「日本語能力試験対策」日本語総まとめ N1 聴解』(アスク刊)、 『日本語能力試験に出る文字・語彙 1・2 級』(国書刊行会刊)			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective (Applied)	レベル Level	4, 5
科目名 Course Title	日本語能力試験 N2 (選) II JLPT N2 Preparation&Training (EL) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	遠藤 樹子 Shigeko Endo	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 「日本語能力試験 N2」に合格するための対策授業			
〔到達目標〕 ・日本語能力試験対策の問題形式を理解し、その形式に慣れる。 ・N2に合格するのに必要な言語知識を身につける。 ・日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解できるようになる。			
〔授業の計画〕 * JLPT 試験の日程に合わせて、授業のスケジュールを変更する場合があります。 第1回 レベルチェック (JLPT 試験形式、レベルの確認) 第2～10回 文字・語彙小テスト (毎回)、文法、読解、聴解問題演習 第11～13回 模擬テスト、弱点の補強、試験前の準備 第14回 期末テスト			
〔授業の方法〕 ・試験形式を確認し、文法、文字・語彙、読解、聴解それぞれの問題に取り組むことを通して、問題の型に慣れるように繰り返し練習します。 ・毎回小テストがあります。			
〔準備学習等の内容〕 ・毎回宿題があります。必ず提出してください。 ・毎回の小テストのための準備が必要です。			
〔成績評価の方法〕 期末試験 30%、小テスト 30%、課題の提出 20%、授業への参加度 20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 39 条) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 日本語能力試験 N3 に合格していたほうがいいです。			
〔テキスト〕 初回の授業で指示します。			
〔参考書〕 必要におうじて適宜紹介します。			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective (Applied)	レベル Level	2 以上
科目名 Course Title	多読 (選) II Extensive Reading (EL) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	川上 麻理 Mari Kawakami	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 楽しみながら本をたくさん読む。			
〔到達目標〕 ・本を読む楽しさを経験し、たくさん読む習慣をつける。 ・たくさん読んで、日本語の力をつける。 ・いろいろなアクティビティを通して、読むことへの関心や意欲を高める。			
〔授業の計画〕 第 1 回 コースの説明、本の紹介、個別指導のためのアンケート 第 2 回～第 13 回 本を読む、多読のアクティビティ、個別面談 第 14 回 本を読む、まとめ			
〔授業の方法〕 ・自分の日本語レベルに合った本を選んで、多読のルールを考えながら読む。 ・自分の読み方や本の選び方について、教師と相談する。 ・授業の時だけではなくて、授業外でも時間を見つけて本を読む。 ・読み終わったら、多読ノートに感想などを書く。 ・ボランティアやクラスメートと多読のアクティビティを行う。			
〔準備学習等の内容〕 多読ノートを書く。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 60%、課題の提出 30%、授業外での読書 10%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 このクラスでは、自分の読み方について考えながら、自律的に学習を進めてほしいです。そのためには、本の選び方がとても大切です。			
〔テキスト〕 日本語学習者のために作られた『にほんごよむよむ文庫』ほか多読の本がたくさんあります。 * 2026 年度前期の授業のために新しい読み物を用意します。図書館の e-book も利用できます。			
〔参考書〕 図書館や本屋で自分で探した本を読むこともできます。			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective(Applied)	レベル Level	3以上
科目名 Course Title	日本語劇をつくる Creating Drama	(選) II (EL) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	川上 麻理 Mari Kawakami	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕 ソーシャルスキル、日本語・日本文化の知識、状況に合った話し方、想像力・発想力			
〔到達目標〕 ・クラスメートと協力して演劇作品を作ることを通して、お互いの考えを理解できるようになる。 ・スクリプトを細かく分析し、日本語や日本文化を深く知る。 ・日本語の音声についてよく考えて、状況に合った話し方ができるようになる。 ・シアターゲームやインプロを通して、想像力や発想力を身につける			
〔授業の計画〕 *ボランティアとの交流を予定しています。 第1回 コースの説明、シアターゲーム 第2回～第3回 作品のテーマを考える、インプロ 第4回～第12回 スクリプトを作る、演技やセリフの練習をする、作品の宣伝をする 第13回 リハーサル 第14回 発表、ふりかえり			
〔授業の方法〕 ・クラスメートと協力して、作品のテーマやストーリーを考え、スクリプトを作成する。 ・セリフを何度も練習して覚える。 ・身体を動かして演じる練習をする。 ・衣装、小道具、スライド(背景)、音楽、宣伝の準備をする。 ・作品を発表する。			
〔準備学習等の内容〕 学生が自発的に行動することが求められる。			
〔成績評価の方法〕 授業への参加度 50%、課題の提出 30%、発表 20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識/先修科目/関連科目〕 一人一人が積極的にアイデアを出すことによって、作品はどんどん面白くなっていきます。自分の得意なことを、作品作りに活かしてください。 人前で話すのが苦手な学生も、ぜひ勇気を出してチャレンジしてほしいです。			
〔テキスト〕 初回の授業で説明します。			
〔参考書〕 なし			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective(Applied)	レベル Level	5以上
科目名 Course Title	ビジネス日本語 Japanese for Business	(選) II (EL) II	開講時期 Term 後期 (Fall)
担当者名 Instructor	山下 順子 Junko Yamashita	単位数 Credit	2
〔テーマ・概要〕			
ビジネス場面で求められるコミュニケーションのための日本語能力			
〔到達目標〕			
<ul style="list-style-type: none"> 自己分析や企業研究活動を通して、就職活動に必要な日本語を身につける。 ビジネス場面において、状況と相手に応じた敬語・定型表現を用いて適切にコミュニケーションできる。 訪日外国人を想定したビジネス場面において、ターゲットのニーズを踏まえ、根拠を示しながら商品・サービスの魅力を日本語で説明できる。 			
〔授業の計画〕			
第1回 オリエンテーション、自己紹介			
第2～4回 自分を知る・表現する			
第5～9回 敬語、ビジネス文書・会話			
第10回 中間試験			
第11～14回 プロジェクト（インバウンド向けプロモーション企画）			
※参加者の状況や学習状況によって内容を変更することがあります			
〔授業の方法〕			
<ul style="list-style-type: none"> 自己分析・企業研究を基盤に、自己の適性やキャリア形成を深めるとともに、就職活動で求められる自己表現を日本語で発信できるようにする。 ビジネスシーンで場面・相手・目的に応じた適切な表現を、タスクを通して練習する。 顧客の関心や心情を深く分析し、魅力が伝わるように工夫しながら提案を行う。 			
〔準備学習等の内容〕			
授業毎に適宜指示する。			
〔成績評価の方法〕			
授業への参加度 30%、 授業中の活動 30%、 中間試験 20%、 プロジェクト 20%			
〔成績評価の基準〕			
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 / Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
中級レベルの学習を終えていることが求められる			
〔テキスト〕			
必必要な資料を適宜授業で配布します。購入の必要はありません。			
〔参考書〕			

科目種別 Course Type	選択・応用強化 Elective (Applied)	レベル Level	2, pre3, 3
科目名 Course Title	日本事情 (選) II Contemporary Topics in Japanese Culture & Society (EL) II	開講時期 Term	後期 (Fall)
担当者名 Instructor	片山 智子 Tomoko Katayama	単位数 Credit	2

〔テーマ・概要〕

- ・今の日本社会を知るために、文化や地理、日本人の生活スタイル、社会の出来事などについて学びます。
- ・興味があるテーマについて、調べます。

〔到達目標〕

- ・日本についての基本的な情報を知ります。
- ・日本の文化や社会を深く知るために、自分で選んだテーマについて、調べて発表します。

〔授業の計画〕スケジュールは、授業が始まってから配ります。

- ・日本の文化や社会についての基本的な情報を知ります。
トピック例：「日本の地理」「季節の行事」「食文化」「伝統芸能」「歴史」など
- ・自分の国と比べてみます。興味があることを自分で調べて、発表します。

〔授業の方法〕

- ・日本語と英語を使った授業です。ハンドアウトは英語と日本語です。先生は日本語で話します。
- ・ペアワークやグループワークをします。
- ・毎回、授業の後でリアクション・ペーパー「振り返り」を書きます（日本語 または 英語）。
- ・自分で調べたことを発表します（日本語）。

〔準備学習等の内容〕

- ・毎週の授業の後に、リアクション・ペーパー「振り返り」を、書いてオンライン上で提出します。
- ・学期末に、「1学期間の振り返り」を提出します。

〔成績評価の方法〕

学生と相談して、変更する場合があります。

授業参加度と課題：35% 振り返り (reaction paper)：50% 発表 (3回以上)：15%

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

レベル2、プレ3、3の学生のためのクラスです。

〔テキスト〕

毎回ハンドアウトを渡します。

〔参考書〕

オンラインのサイトを授業で紹介します。